

国際標語「不名誉のそしりこそが自殺予防の大きな妨げ」

日本自殺予防学会理事長 齋藤 友紀雄

2007年6月に初めての「自殺総合対策大綱」が策定されましたが、昨年初めて全体的な見直しが行われました。見直し後の大綱では「誰も自殺に追い込まれることのない社会の実現」を目指すことが明記されています。しかも地域レベルの実践的な取組を中心とする自殺対策への転換を図られています。具体的施策として、若年層向けの対策や、自殺未遂者のために対策を充実すること、さらに国、地方公共団体、関係団体及び民間団体等の取組、相互の連携・協力を推進することなどが掲げられています。この「大綱」策定に際しては、自殺予防学会所属の研究者、臨床・実践家たちも、大きな役割を果たしてきたことを誇りとしたいものです。

「世界自殺予防デー」は国際自殺予防学会（IASP）が、2003年に提唱したもので、日本政府は上記「大綱」が制定された2007年以来これを採用、毎年9月10日を中心にさまざまな自殺予防に関する行事を実施してきました。今年の国際標語は“Stigma: A major Barrier to Suicide Prevention” 「不名誉のそしりこそが自殺予防の大きな妨げ」です。従来の自殺予防活動は、うつ病予防、相談事業などの啓発が中心でしたが、自殺についての誤解や偏見こそが自殺予防を妨げているとの認識から、上記の標語が選ばれました。

今年は従来からの広報・相談活動だけではなく、「自転車世界一周」世界中の関係者が地球一周距離4万キロを自転車で走り、参加者に献金をしてもらうという企画です。こうしたイベントを通して、自殺予防への関心を高め、自殺への偏見を無くそうという初めての試みです。人の意表を突く発想ですが、実は日本で唯一の英語による自殺予防相談「東京英語いのちの電話」(Tokyo English Life Line) はもう10年以上前から、東京駐在の各国大使館に呼びかけ、5月の連休中に皇居一周のマラソン大会を実施していますが、趣旨は自殺防止です。参加費(献金)を払って、走っても歩いてもよく、その参加費収入を活動のために寄付しています。子どもたちや母親も参加しますから、賑やかで華やかです。悲壮な面持ちで自殺予防を訴えるだけでなく、サイクリングやマラソンでさりげなくアピールすることによって、社会的偏見を減らすことになるでしょう。

★自殺予防週間の期間中、第37回日本自殺予防学会総会を秋田市で開催します。

大会テーマ：多様な自殺予防のあり方を模索する ●2013年9月13日(金)－15日(日)

会場：秋田県総合保健センター(秋田市千秋久保田町6-6)

大会長：稲村 茂(メンタルクリニック秋田駅前院長)；大会事務局：秋田いのちの電話

☆学会員・関係者の皆さんは自殺予防週間の期間中、秋田総会に参加するか地域で相談活動に取り組むなど、みんなで自殺予防週間を盛り上げていただきたいものです。

本学会は学術団体であるとともに、社会啓発も大きな役割です。